

令和2年度 第1回学校評議員会記録

- ・子どもたちの元気いっぱいな姿に感動した。
一人一人に合わせた教育で、教員の工夫が感じられた。子どもたちのために頑張っていて欲しい。
- ・問題があれば、できるだけ力を貸したい。地域としても協力をしたい。
- ・コロナによる休業中は、いつも違って休みとはいっても出かけられないし、苦慮した。余暇を充実させることの大切さがわかった。
- ・園生が、学校に行きたくないという話は聞いていない。コロナ対応については、厚労省と文科省では差がある。園では対面対応は避けている。
- ・子どもたちのいきいきとした様子がうかがえてよかった。休業中の様子はどうかであったのか。親御さんの様子も気になる。
※居場所づくりとして、学校で対応した児童生徒もいた。ICTの整備が進み、家庭で動画が見られるアプリが導入されたが、急なことであったためノウハウもなかったし、家庭の受信等の事情により、まちまちであった。今後も引き続き対応していく。
- ・校舎の老朽化が目立つ。福祉施設では40年が建て替えの目安である。モニターが廊下に出ているが、キャストが危険である。
- ・教師と子どもの関係がよいように感じた。子どもの反応を見たらわかる。子どもの笑顔が多い。体育館で大玉転がしをしていたが、へそを曲げた子どもへの手厚い対応があり、ほったからしの子どもはいなかった。目を離したときにいろいろなことがあるので注意して欲しい。保護者評価の自由記述欄にも率直な意見が記載されている。こういう意見を隠さずに出すことで、開かれた学校にして欲しい。今年度、就職した卒業生のその後はどうか。現場実習中は旗を立てるとのことなので、見かけたら声をかけたい。兵庫県は雇用率が低いので根気よく取り組んでほしい。コロナ禍の中、修学旅行も配慮して計画されている。この地域の特別支援教育に関するセンター校としての役割を果たすことが本校のミッションである。相談するなら氷上特別と勧めている。これからも特別支援を要する子どもたちが増えるだろう。校舎についても懸案事項であるが、チームワークで乗り切りたい。

学校評価における評議員からの意見の集約

(第2回学校評議員会はR3/2月12日に実施予定であったが、緊急事態宣言を受けて中止とした。そのため、評議員には学校評価と児童生徒の一年間の学習活動をまとめたものを送付し、次年度に向けたアドバイスを受けた。以下はそれをまとめたものである。)

・日々の指導、対応に感謝している。保護者アンケートの結果は概ね良好であるが、課題も見えてきていると感じる。保護者の意見を今後の学校運営に反映し、より良い指導、学校生活をめざしてほしい。感染症については学校も施設も集団生活の場であり、様々な対応に苦慮する中で、情報を共有し、対応を検討してこの難局を乗り越えたいと考えている。

・保護者アンケートについて、質問項目全体に言える傾向として、小学部では高評価であったものが、中学部、高等部と高学年に移行するにつれて低評価になっている。なぜか。保護者のニーズが高くなっていくからか、学校側が対応できていないからか。

・令和2年度教員評価について、回答数が59となっているが、教員数は59名なのか。何名中、何名の有効回答があったか記してほしい。その状況によっては、教員側の服務規律を問う必要がある。

・保護者のニーズは(回答数のように)72通りあるが、学校側が個々に対応できかねているのではないか。教員側の判定はAまたはBであり、本当に「C:取組に工夫が必要」や「D:取組の見直しが必要」はないのか。例えば、「ヒヤリハット」は考察できて、体制づくりが進められているか。

・各授業において、資格の取得等によって生徒の意欲を高める内容で、大変良いと思う。高等部においては各々の特性等を十分考慮し、相互の交流に留意しつつ個々に応じた指導がされていると感じた。環境においても地域との交流など自然環境に親しむ形態を取り入れていることを評価する。

・保護者アンケートについて、平均3.5以上はよしとし、それ以下の項目は課題としてとらえると、3の自立に向けた指導、15の進路等の情報提供、16のPTAと保護者同士の連携の3項目は今後の取組を考える必要がある。

・平均3.4がいくつあるかが課題として今後取り上げていく必要がある。

・自由記入欄の中では「感謝している等」の良い意見はいいと思うが、朝の長時間の保護者と教師との道路上での会話、高等部の「トイレが汚い」の記述は調査の上、すぐに

改善することを勧める。

・教師アンケートについて、平均の値が 3.5 以上であっても各学部の評価に 1 か 2（どちらかといえばそう思わない、そう思わない）がある項目も、何が課題なのか検討する必要がある。

・教師アンケートについて、新型コロナ対策の項目で、B 評価のところ、小学部 4 と 6、中学部の 1 3 は気のゆるみがないかを点検する必要がある。

・教師アンケートについて、高等部の 2 3、2 4、2 5、2 6、生徒指導部の 3 3 の項目はいずれも「アンケート」に関する内容であるが、B 判定となっている。この結果は学校内で再度見直してほしいと思う。見方によると「アンケート」はとるが活かされていないということにもなる。特に「共有する・学部協議が行われる」が気になる。せっかくの調査を生かしてほしい。

・全体を通して、学校評価も毎年の恒例となりマンネリ化、結果の軽視化になっていないかをこの辺で考える必要があると思う。その上で、形骸化、マンネリ化しているようであれば、県全体でやり方等について考え直すこともあっていいと思う。氷上特別から発信してもいいのではないか。

・全体を通して、この学校評価はほぼ平均点以上の結果がどこの学校でも出ている。氷上特別でも同じことが言える。おそらく多くの保護者、児童生徒はほぼ満足した学校生活を送っていると思う。また、先生方の評価を見ても同じようなことが言えると思うし、そうであると思う。だからこそ、少数ではあるがマイナスの評価をしている意見に真摯に耳を傾ける必要があると思う。

・コロナ禍において、学校行事等の延期や中止、縮小等、または、地域の皆様も学校への出入りが制限される中で、地域との交流やつながりも難しくなっており、実際に児童生徒たちの学習の様子を見せていただくことも困難な状況である。学校からは、定期的に学校だより等を送っていただき、それらを頼りに学校の様子を窺うことしかできないが、感染防止等のため多くの制限があるとはいえ、様々な工夫をして生き生きとした活動をされている様子をうれしく思っている。「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、コロナ禍の困難な状況においても、貴校の先生方の努力と豊かな発想で豊かな授業づくりをしていただくことを期待している。また、実際に授業見学等ができない分、リモートや VTR 等での視聴なども検討していただければ理解が深まると思われる。